

中国における知的障害児の就学前教育に関する研究
－ 蘇州市金閶区培智学校就学前クラスの実態調査から －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
唐 妍

本研究では障害児就学前教育の実態を明らかにし、今日の中国の知的障害児就学前教育の基本課題を明らかにすることを目的としている。

フィールドとして、筆者の出身地である、蘇州市で初めて就学前教育を実施した公立学校を選んだ。本研究では、上記の基本課題を明らかにするために、創立者へのインタビュー調査を行った。インタビュー調査を通して、現在就学前クラスにおいて、①受け入れ人数の制限、②教育プログラムを作成する際の困難、③教育環境の提供、④教育のあり方、⑤教員への研修などの5つのニーズを分析した。次に障害児就学前教育の新たな試みを提示するために、就学前クラスに在籍している児童6人（男児3人、女児3人）を対象に実態調査を行った。調査内容は①対象児の保護者へのアンケート調査とインタビュー調査、②就学前クラスの担任へのインタビュー調査、③対象児の校内での行動観察、④対象児への発達検査の4つであった。

その結果、児童のニーズに応じた教育プログラムの作成に困難があることがわかった。また、親や教員も、児童の教育プログラムとして①言葉の増加や指示理解、②生活スキル向上など、行動面や目に見える変化を期待していることが明らかになった。

児童の教育内容を考えるときに、発達と障害を抜きに考えることができない。すなわち、児童一人ひとりのニーズに合わせた教育プログラムを考える時、発達段階と障害特性を踏まえたカリキュラムは必要であるということである。

本研究では障害児それぞれのニーズに応じた教育内容を計画・実行・評価することが硬いとなる。